



② 鶴見川クリーンセンター脇の南谷戸



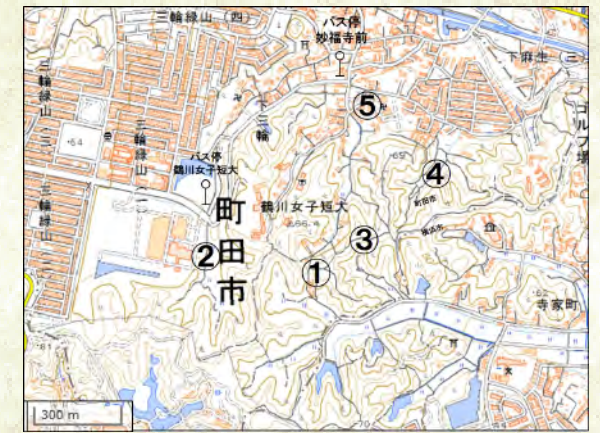
③ 玉田谷戸横穴墓群（都指定史跡）



④ 気持ちのいい散策路



⑤ 妙福寺の鐘楼門（しょうろうもん）（市指定文化財）



位置図

里山の花々 in 町田

町田市郊外の里山を散策すると、四季折々の山野草がいろどりを添えてくれます。



カタクリ 4月



マルバウツギ 5月



キンラン 5月



コアジサイ 5月



ナワシロイチゴ 6月(果実)



カキラン 6月



オカトラノオ 6月



ミヤグサ 6月



ホタルブクロ 7月



ノカンゾウ 7月



ヤマホトギス 8月



ヤマユリ 8月



キツネノカミソリ 8月



カラスウリ 8月



ツチアケビ(果実) 8月



ウバユリ 8月



ツリフネソウ 9月



タコノアシ 9月



タヌキマメ 10月



ツルウメモドキ(果実) 10月



リンドウ 11月



シモバシラ(氷花) 12月



ヤドリギ (冬景色)



町田をくりぬく!!

考えるグループ

「考えるグループ」は、町田市の今を歩く時、このまちの景観の名所を拾い歩いただけでは地域の姿を捉え切れないのではと考えました。そのため、普通の住宅地を含め町田のさまざまな地域をポイントとして取り上げ、まち歩きを行ってきました。

「わざり歩き」から「くりぬき歩き」へ

2011～2013年度の景観づくり市民サポーター第一期では、町田を含む多摩丘陵のでこぼこ地形を常に高低差を意識しながら横断的に歩きました。

それを「わざり歩き」と呼び、地形の特徴など含め考えたことを「町田をわざる！」として冊子にまとめました。

2014～2016年度の第二期では、対象とする地域を15ヶ所選び、周辺から内部に入り込むようなコースを設定し、幾重にも視線を重ねながらメビウスの輪のように歩きました。そして、その歩き方を「くりぬき歩き」と名付けました。

地域の特徴を拾いだすためには、その地域を幾つもの道筋から、見通し、振り返り、視点の高さを変える歩き方が必要と考えたからです。

このように、地域を丹念に見て歩くことによって、地域の多様な姿を知ることができました。また、複数の地域を跨ぎながら歩くことで、隣り合う地域との関係も感じるすることができました。



まち歩きには、歩く地域の概要とねらいを記した案内の他、現在と、明治時代の地図にコースチェックポイントなどを記したものを持って、メビウスの輪のようにぐるぐる歩きました。



中心市街地では、通りだけでなく、高い所からも眺め考えました。



まち歩きでは、出会った人とおしゃべりすることも楽しみのひとつです。



景観のタネを探しながらひたすら歩きました。

03 相原駅(15.03) 相原駅の北側～西側～南側～東側

境川から緑に包まれた尾根まで、台地と丘陵地の境の原型を体験。
丹沢山地の近さと立体感、単なる斜面地ではない、厚みのある尾根の緑も実感。

04 多摩境通り(15.05) 多摩境駅～御岳堂～片所～多摩境通り～南大沢～小山内裏公園

尾根近くの元々奥深かったエリアを開発したために、人工的な環境と昔ながらの環境が錯綜している状況を見る。
尾根を越えるたびに大きく変わる風景に加え、町田と八王子の景観の違いなども体験。

02 尾根緑道(15.01) 馬場～上小山田～常盤～小山田桜台～はなみずきの丘～平台～常盤交差点

尾根緑道を何度も横切りながらあちこちから眺め、その緑が周辺地区の景観に果たす役割を考える。
起伏に富んだ地形のひだを挟んでさまざまな風景が並び共存していた。

01 馬駆の坂(14.11) 函師大橋～馬駆～函師～忠生～山崎～函師交差点

丘陵地を貫く芝溝街道が台地沿いに伸びる町田街道へ駆け上がる、長い印象的な坂の風景を多方向から見る。
町田市域各方面の地勢がぶつかり切り替わる、ちょうど町田の「へそ」に位置する地でもあった。

13 山崎の谷(16.07) シーアイハイツ～山崎～忠生公園～山崎団地

台地と丘陵地の境に位置する谷あいの、新旧の佇まいが入り混じる独特な地区の今を歩き見る。
地区のつながり、潜んだ小世界、周辺から見た大規模団地など、新たな気づきと数多く出会った。

09 わさび沢(16.02) 滝の沢～わさび沢～町田市民病院～井出の沢～中町

台地と丘陵地の境、基盤目の街(中町)と大規模団地(木曾団地)の間に食い込んだ谷の世界とその景観的な意味を考える。
谷を渡る新町田街道の開通後、二つに分断される谷の未来像に思いを馳せた。

15 原町田(16.10) 相模大野駅周辺、町田駅の東側～西側

15回のまち歩きの最後に、町田市内で最も人工度の高い景観を歩く。先立って相模大野駅前にも訪れる。
自然や人工物だけでなく、人が居て成り立つ景観もあるのではと気付いた。

10 金森段丘(16.03) 町田街道～松葉谷戸公園～小田急金森住宅地～金森～境川～鶴間～町谷原

境川の河岸段丘を挟んで広がる台地と低地の平らな景観を、JR横浜線から境川まで横断的に見る。
旧道の交わる辻の風情・都営アパートの馴染み、境川旧流路の活用など、平地ならではの景観を体験。

08 鶴間っ原(16.01) 南町田駅～大ヶ谷戸～鶴間公園～グランベリーモール～町田市辻交差点～熊野神社～南町田駅






町田の最南エリア、大動脈たる国道の16号と246号が交差して分断されたかに思える地区の景観を考える。
立体的に巨大化した広域交通の要衝から、昔ながらの筋や辻が残る街並みまで、交差点のさまざまな姿に注目。



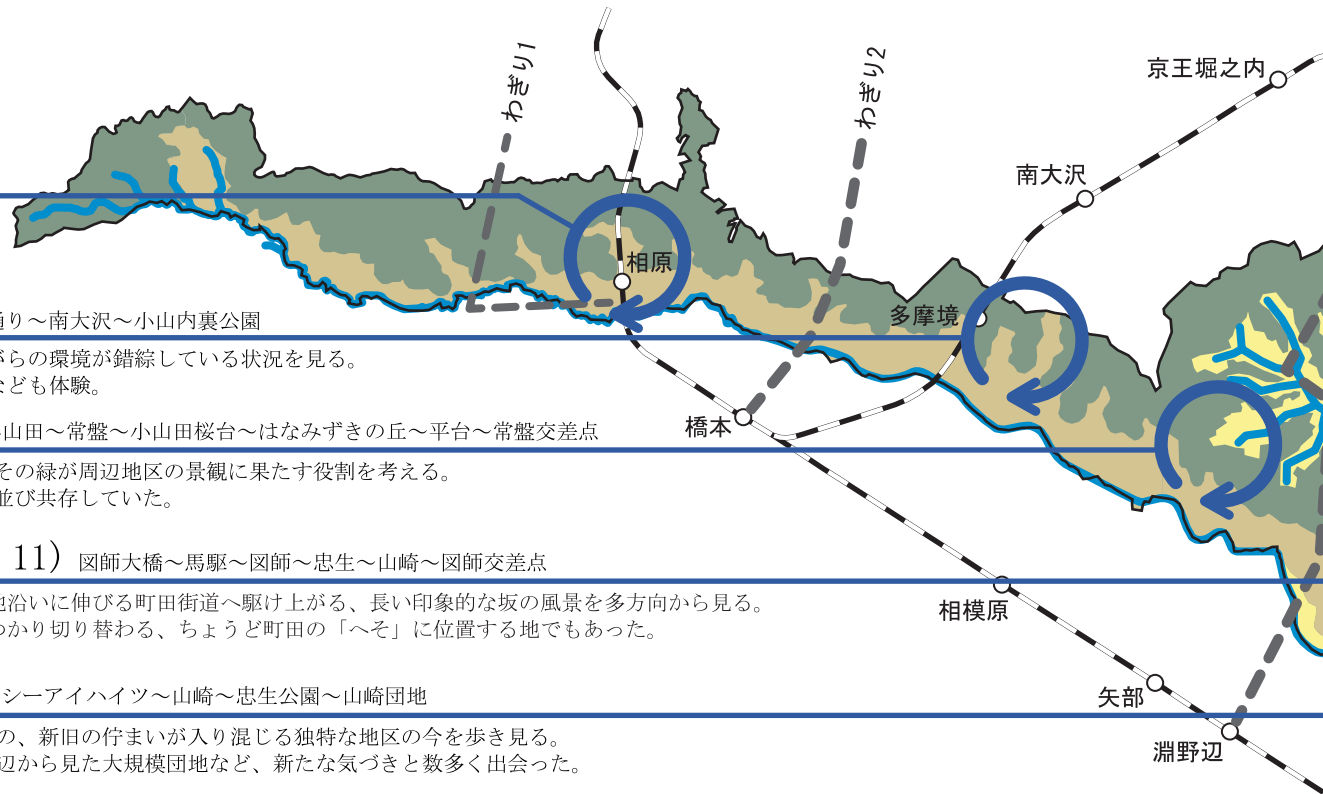
くりぬき歩き一覧

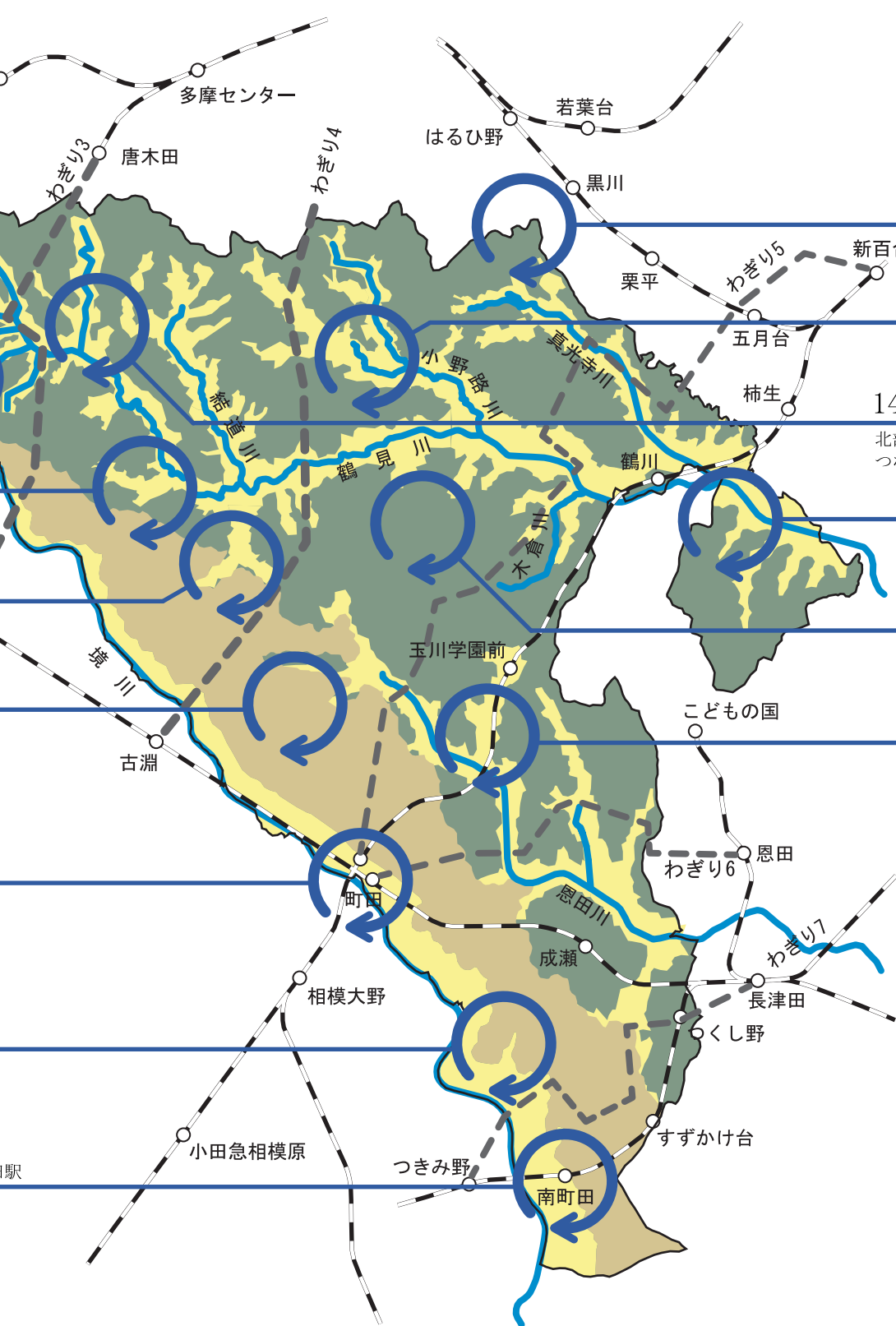
まち歩きのタイトルは、各回のテーマから独自に名付けたもので、実際の地名とは関係ありません。

<凡例>

-  低地
-  台地
-  丘陵地
-  河川
-  第1期 わざり歩きルート

※本ページの地形図は、「町田市景観計画」25ページの図版「町田市の地形」を加工して用いています。





11 真光寺峠(16.05) 黒川駅～栗木～真光寺～黒川谷戸～はるひ野～汁守神社

S字の道筋が昔のまま残る分水嶺の峠道の、市街地に埋もれた今の景観を見る。峠や尾根を挟んで、全く異なる世界が背中合わせに隣り合っていた。

05 小野路宿(15.09) 小野路宿～万松寺谷戸～奈良ばい谷戸～鎌倉街道～大犬久保～小野路宿

宿場とその周囲を包む分厚い緑の中を巡り、宿場の環境を広範囲から見てみる。丘陵地景観の基礎となる谷戸地形のさまざまな形を一気に体験。

14 小山田郷(きょう)(16.10) 正山寺～押越～はなみずきの丘～小山田緑地～結道谷戸～大泉寺

北部丘陵の奥深くに位置し、昔ながらの風景も多く残る地域の、鉄道やモノレール延伸後の姿を考える。つながり広がる今の風景の中で開発後をイメージする難しさも実感。

06 鶴川盆地(15.10) 三輪緑山～下三輪～上三輪～千都の杜～鶴川駅

鶴見川の蛇行によって四方が閉じて見える鶴川の低地を、盆地に見立てて景観的に考える。低地を囲む尾根の姿を多方向から眺めつつ、時代の異なる大小の開発地の違いも見比べる。

12 開発地群(16.06) 藤の台団地～薬師台～鶴見川～榛名坂ヒルズ～金井遊歩公園

丘陵地に大規模住宅地がひしめくように広がる、「住まい共生ゾーン」の典型とも言えるエリアを歩く。個別の開発地と、間に残った緑が繰り返される風景は、ちょうど緑で縫い合わせたパッチワークのよう。

07 玉学山地(15.11) 玉川学園西エリア～南大谷～玉川学園東エリア

地形的にも個性のある玉川学園を、恩田川を挟んだ北斜面に広がる南大谷と比べながら歩く。開発から80年という「時間」の積み重ねとその意義、課題も併せ考える機会となった。

※「耳をすませば」聖地巡礼(15.07)

聖蹟桜ヶ丘駅～いろは坂～丘上のロータリー～永山駅

映画の舞台として描かれた多摩丘陵の風景の実際を訪ねる。ジブリ映画も良いけれど、現実世界の景観のほうがもっと面白かった！



相原駅西側の丘の山道を歩いていると、ふと視界が東に開け、境川に面する南斜面が足元のミニ谷戸からずっとつながって見通せる。近景から遠景まで住宅と緑が混じり合った眺めは丘陵地ならではのもの。

景観のタネ



くりぬき歩きを始めた当初、メンバーは各自でんでんばらばらに立ち止まっては好き勝手に眺めたり考えたりしていましたが、回を重ねるうち、次第に何かに引かれるように、集まり語り合う場所が揃うようになっていきました。第二期では、そのような場所を「景観の引力」と称することにし、まとめとして、町田を計 15 回歩いた中から「景観の引力」に引かれた所をピックアップし、以下の七つの「景観のタネ」に整理してみました。

次ページ以降の紹介でも分かる通り、この「景観のタネ」は皆さんが住む地域の何気ない当たり前の風景がほとんどで、他所から訪れる人にぜひ見て欲しいような場所ではありません。そこを敢えて、町田に住む私たちが、日々暮らす街並みの景観を良くしていこうとするときに着目すると良さそうな、今後育てがいのありそうなポイントとして示してみようという試みです。

どのタネもその地域の景観にひそかに大きな影響を及ぼしていて、いずれ景観要素として育っていく可能性を秘めていると考えています。もし興味を持っていただけたら、皆さんもご自身の地域に潜んでいる新たなタネを探してみませんか？

一方、タネを整理していく過程で、「人が介在することで成り立つ景観」という新しいテーマが浮かび上がってきました。紹介の最後に、それに関するメンバーの思いをいくつか付け加えています。

その1 足元から続く眺め

目前に広がる大眺望を見渡すとき、大画面テレビと向き合うかのように、見ている風景とは別の世界に立って眺めているのが普通ではないでしょうか？ と
ころが丘陵地を歩いていると、見ている足元から大眺望まで途切れなくつながり、自分が風景の中に溶け込んで居るように感じるがありました。眺めの中に包まれる臨場感は独特で、多摩丘陵ならではの体験に思えます。



真光寺地区の谷戸山から南東の広袴方面を見渡す。足元の手入れされた斜面が谷底の住宅地に続き、向かいの市境の尾根の緑のスカイラインまで、風景が一体として感じられる。

- ・ 足元から続く大眺望
相原駅西側、真光寺
- ・ 丘陵地—台地境の坂道からの見下ろし
馬駈の坂、山崎の坂、小川の坂
- ・ 住宅地の隙間の先に広がる風景
「日の出ヶ丘」住宅地、関山



台地から山崎地区に下る長い坂道。坂下の街に飛び込んでいくかのような感覚を覚える。

その2 小世界の深み

町田では、小さな谷戸や開発からズレて残った場所が、周囲と切り離されて独特な世界として今の街並に埋め込まれていました。それらはまち歩きで景観の引力を強く感じさせ、地域の風景に奥深さを加えているように思えました。また開発地でも、時を経るなかで、周辺地域に溶け込みつつあるもの、開放的ながら独特の小世界を持ち続けているものなどに出会いました。



上小山田地区押越にて。切通しの影の向こうに、切り離されたかのような別世界が広がる。このような奥まった世界が控えていることは、上小山田地区全体の景観に深みや厚みをもたらしている。

- ・ 大小の谷戸がつくる小世界
築田寺、押越、わざび沢、大犬久保
- ・ 開発からズレて残った小世界
小山田バス停廻り、広袴や相原の川沿い
- ・ 周囲からの隔絶を狙った城塞型団地
マークスプリングス、パークサイド南大沢
- ・ 時を経て周囲に溶け込みつつある団地
都営金森アパート、山崎団地



独自の小世界を保つ山崎団地は、一方で、時を重ねるなかで周囲の環境に溶け込みつつある。

その3 ゆらぎの味

町田市の景観計画では屋根や壁の形、位置、色合いなどが揃っていたほうが景観的には良いと読み取れますが、何かと揃っているほうが景観的に好ましいのでしょうか？ まち歩きをしていると、揃い切っていないが、かといってバラバラでもない微妙なバランスに引かれることがありました。その様子を「ゆらぎ」と名付けてみると、街中にいろいろな「ゆらぎ」があることに気づきました。

例えば屋根や壁の色が、似た色合いの中で少しずつ違っていたり、似たような形の中でいろいろな色合いをしている風景。または、見通せるけれどわずかにジグザグな道沿いに建物がいろいろな向きに見えるなど、おおよそ揃いつつも、色合いや並びに巾があるゆえに、全く均一に揃っているよりも味があると感じることがありました。メンバーの感じ方にもゆらぎがあり、最も議論が盛り上がったテーマでした。



鶴川地区「千都の杜」住宅地の屋根の風景。壁面があまり見えず、三角形の屋根だけが連なって見える点は揃っているが、屋根の色合いは落ち着いた黒系、緑系、茶系、赤系が多様に広がっている。

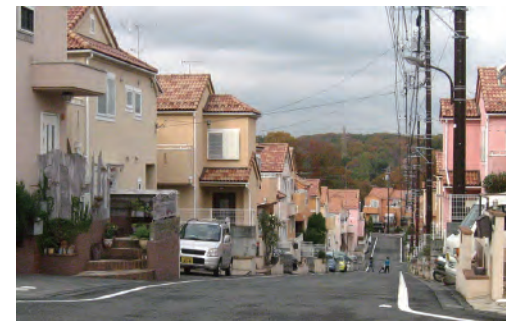


大ヶ谷戸の旧道沿いの風景。左右にゆらぐ道に沿って、建物がさまざまな表情を見せる。



「四季の丘」住宅地の道。道空間がゆらいでいるため、規則的な建物の並びが錯覚で多様に見える。

- 屋根の色のゆらぎ
「千都の杜」住宅地
- 均一的な屋根
「薬師台」住宅地、「森の丘」住宅地、
- 道のゆらぎ
大ヶ谷戸旧道沿い、薬師台遊歩道、
「四季の丘」住宅地



南欧風意匠の建売開発地。屋根や壁の造りが均一的 vs ゆらいでいて良いと、評価が別れた。

その4 順ぐりの景と見通せる景

曲がった道では、進むにつれ順ぐりに風景が変わりゆく楽しみがあり、その変化が効果的に演出されれば景観的にも好ましくなりましょう。一方、真っ直ぐな道では、見通せる道沿いの風景がひとまとまりとして感じられれば、景観的な特徴につながりそうです。どちらのタイプの道も、その特徴を景観に結びつけるよう活かすことが大切に思えます、



薬師台住宅地。各戸の前庭が似たような造りになっているのに加え、真っ直ぐな道の突き当りに妻入りの住宅が立つことで正面が強調され、道沿いの風景のまとまり感を高めている。

- 曲がった道の順ぐりの景
三輪地区内、玉学学園内、境川の河岸段丘、真光寺峠、旧道沿い
- 真っ直ぐな道の見通せる景
新町田街道、中町の基盤目街、東名入口交差点の三層立体交差

三輪地区の坂道。曲がった坂道の途中に立つ一本立ちの大ケヤキが、坂道に個性を付け加えている。



その5 不規則な辻

現代では交通安全上、交差点は直交させるのが原則ですが、旧道どうし、または旧道と新道が交わっている場合、地形の凹凸、集落間の短絡、主街道との接続などから、斜交した交差点となることが多々あり、五叉路、六叉路など複雑なものもたびたび見掛けました。こうした地形・歴史・人の営みが重なって埋め込まれた「辻」は、景観的にもっと重視しても良いのではないのでしょうか？



小田急金森住宅地。町田街道から一步奥まったこの交差点から、道は地形沿いに分かれていく。エリア内の各方向が見渡せるこの「辻」は、住宅地の入口として重要な景観ポイントになり得る。

- 地区の入口
「小田急金森」住宅地、わさび沢
- 五叉路、六叉路
金森の五叉路、森野の六叉路



小山田地区の鶴見川上の三叉路。旧道沿いに残る旧家が、橋のたもとの風景をつくっている。



その6 境を馴染ませる場

開発に際しては、エリア内の個性は熟慮されても、エリア外との関係は軽視されがちで、そのような開発地がひしめきあう町田では、単なる背中合わせの開発地境が大量に生まれています。しかし、たまたまその境に配された緑地や小公園などが、時を経て、背中合わせだった開発地どうしを空間的、景観的に馴染ませていると感じられる場所に出会うことができました。



鶴間地区を東西に貫く「水道みち」が右手に見える。その「水道みち」が膨らんだように設けられた三角形の小公園は、道を挟んだ両側の開発地がお互い向き合っているかのように、人の集う場となっていた。

- ・馴染ませる小公園
水道みち（鶴間）、三輪住宅
- ・馴染ませる緑
「森の丘」住宅地
- ・馴染ませる開発地
「埴の丘」住宅地



「埴の丘」住宅地の入口。緑を活かした開発により、多摩丘陵南縁の緑のスカイラインが維持された。

その7 多才なもの

あるものを景観上大切だと語ろうとすると、うっかりすると一方向から見た一つの役割のみで考えてはいないでしょうか？ くりぬき歩きでためつすがめつ見てみると、その大切に思えるものが見る向きによって、あるいは遠目近目で、様々な意味を重ね持っていると思える場合があります。景観上、いわば多才とも言える資源は、それだけ重要だとして訴えることができそうです。



相原の横浜線脇から橋本方面を見る。東西の谷戸山の緑の間にそびえる一本の大ケヤキが、遠目からは両側の緑をつなげつつ、橋本の高層ビルの手前に立ってその人工的な印象を和らげているように見えた。

- ・多才な立木
相原の大ケヤキ
- ・多才な緑
尾根緑道の並木
- ・モデル立ちする建物
廣妙寺（南大沢）



同じ大ケヤキの近景。陽田川脇に立ち、旧道沿いの街並みを強く印象付ける役割を果たしている。

人と景観



JR 町田駅前の広場、動くオブジェクトを囲んだ白い屋根の下を人が行き交う様子は、「人と景観」の関係を思いおこさせる。

世代

町田市は、尾根と谷戸が繰り返す地形ですが、谷戸の人家と尾根筋の林がせめぎあっている地域、さらに「三輪緑山」や「森の丘」のような木々の茂っている庭がある地域に、魅力的な景観が多く認められました。しかし、相模大野駅周辺の駅に近い高層マンションには若い人たちが多く住んでいたこと、および新しい住宅街では庭がほとんど無い住宅が連なっているのが顕著だったことから、町田市の今後の景観は激変する可能性があります。そこで、この景観の激変への対処法を今から検討しておく必要があります。

共生

緑に包まれ風情のある山崎団地、谷戸の小世界に梁田寺の静けさ、玉学山地の丘陵地の眺望など、町田市には人と景観が共生している場所に出会えます。一方、美しさが消滅した悲しい事例もあります。かつて四季の花が咲き、子供が集い、木陰で家族が憩う素晴らしい景観であった住宅街の芝生の公園が、今は雑草が茂る荒廃地となっています。住宅街で少子高齢化が進み、公園で遊ぶ子供が減少、公園の環境維持への人の関心が薄れた事が景観破壊の大きな原因ではないでしょうか？素晴らしい景観を維持するには、それに関心を持つ事、人の関与、手助け（ボランティア活動）などが不可欠と思います。

気配

まち歩きをしていると、人の気配が感じられ景観として浮かび上がってくる場所に出会うことがあります。住宅地の中や郊外の谷戸・尾根筋を歩いていると、おそらく誰かが手をかけたであろうと思う場所や、子供たちが遊んでいたであろうとを感じる場所などです。その場には居ないのですが、彼らが残した路上の落書き・そっとおかれた花などにより、周囲の景観の見え方が、見る人に様々思いを馳せさせる役割を果たしていると思うのです。

原風景

昭和30年に上京するまで横手盆地に住んでいました。豪雪地で、12月から翌年の4月まで1mもの雪で閉ざされます。雪が融ける5月になると集落の老若男女総出の農作業が一斉に始まり雪の季節まで続きます。この間、働く人々の姿があちらこちらで見られ、躍動感ある田園風景を造り出していました。町田市では農地も小規模で、まとまった農作業風景は見られなくなりましたが、農地のかたわらに無人の野菜売り場を見かけ農業への愛着心が感じられ、その風景は私の故郷の原風景と重なり合ってきます。

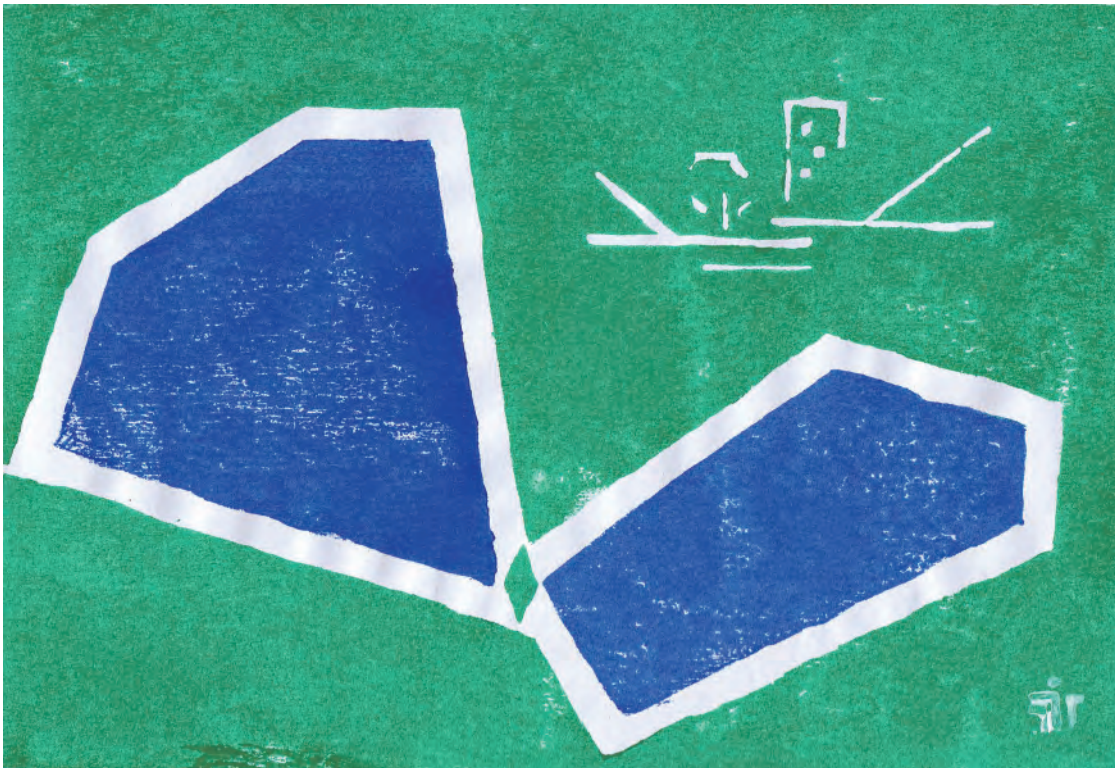
人そのものこそ

町田市街地では、駅に急ぐ人駅から降りてきた人、街をぶらつく人、食事所や酒屋を探す人でごった返すいつときがあり、この人の流れにふと立ち止まると、なぜか華やぐ感覚があります。良い景観に人が集まるのと同様に、人が居るから人が集まる。もし美しい公園とか建物があっても人の息吹を感じる事が無ければ物足りなさを抱くに違いありません。樹木が重要な景観の役割を担うのと似て、人も景観の要素の一部であると考えられるのであります。

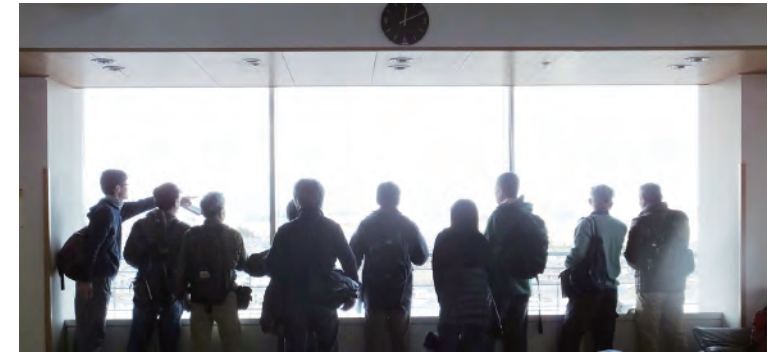
まとめ

拾い上げた「景観のタネ」が生活風景を豊かにしていくきっかけとなることを願っています

市内 15 か所に渡るまち歩きの中で、私たちは、心の中に住まう、生まれ育った地域の原風景を、訪れた個々の地域の風景に重ね合わせていることに気づきました。町田では、豊かな自然と変化に富む地形が開発を受けて変化しつつ、個性を持って融合する景観いわばパッチワーク的な世界、が造られ続けていくでしょう。「景観のタネ」は、豊かな生活風景を創っていくきっかけとなる可能性を持っていると期待しています。そして風景の豊かさが、この街に生まれ育った人たち、これからの街づくりを担う人たちの原風景として、印象深いものになっていくことを願っています。



空間を「くりぬき」台地（緑）を起点から起点に戻る「歩き」をしたイメージ



まち歩きのとある一日、高い遠くを見渡せるところに行くとき必ず「あ、あ、こうだ」と議論を始めるのが私たちの習わしになった。

この報告書はダイジェスト版です。

考えるグループの本編「町田をくりぬく!!」のほうもぜひお読みください。

町田市景観市民サポーター・考えるグループ一同

※くりぬき歩き実施データ
街歩き総回数・15回
街歩き総距離・108Km 概ね時速 2Km/h
延べ参加人数・18人×15回 200人
自主ミーティング・9回 36時間

■特別座談会

町田の景観づくりについて語り合う

「3年間の活動を振り返り、改めてまちだの景観について語り合う」と題し、参加した時の気持ちや、3年間の振り返りの今の気持ち、これからどうしていくのかなど、気楽に対等な立場で話し合いました。

■参加者

第2期景観づくり市民サポーター

- ・学ぶグループ：高柳さん、澤田さん
 - ・探すグループ：岩上さん、岸さん
 - ・考えるグループ：泉川さん、永江さん
- 景観づくりコーディネーター：大戸さん、佐野さん
ファシリテーター：大沼さん（考えるグループ）
町田市地区街づくり課：近藤係長
ほか

・オブザーバー：4名（景観づくり市民サポーターより）、地区街づくり課職員：4名

■01. 景観づくり市民サポーターに参加した時のこと

大沼：景観づくり市民サポーター（以下、サポーター）に参加された時の気持ちを、自己紹介も兼ねて順番にお願いします。

高柳：学ぶグループのリーダーをやらせてもらい、難しいことや初めてのことを沢山経験させてもらいました。最初は、サポーターになって学ぶというよりも見ることを中心に考えていました。

澤田：サポーターをやる前は、自治会や防犯協会の活動に参加していました。第1期のサポーターのイベントに参加し、その時に声をかけてもらい、あまり景観の知識は無かったのですが、やってみようと思いました。

岩上：20年程前から都市計画マスタープラン策定や鶴川地区の自然を守るための活動に関わって市内を歩き回り、町田に素晴らしい里山景観があることを知ったのがきっかけです。

岸：私は、市内を歩いてみたいと思っていたのですが、独りで歩くのも何だかと思っていましたところ、サポーター活動を知って、応募しました。

泉川：三輪に住んでいますが、三輪は景観に対する活動が活発なのと、景観賞の冊子を見て、応募しました。

永江：第1期からサポーターをやっています。第1期では道路や緑という話題が出ましたが、2期ではそこから更に景観のことを考え出すための要素を見つけたいと思い応募しました。

大沼：今度は、町田市の景観づくりに長く関わってきた佐野さんにお話を聞きたいと思います。

佐野：平成16年に景観法ができて、その後に町田市が景観法に基づく町田市景観計画を作るということで、9年位前から町田市と関わっています。その時、景観計画に「住民主体で活動すると載せたんですね。それで、当時の地区街づくり課長と担当者と相談しながら他の行政を参考に、第1期サポーターを立ち上げたんです。当時は、どんな人達が応募してくるのか、期待と不安でいっぱいでした。

大沼：大戸さんも長く町田市に関わられてますよね。3年前の気持ちを聞きかせてください。

大戸：昔は「景観」というと、行政が市民に与えるものという雰囲気がありました。それが、ま

ずは防災の観点から市民主体の街づくりが進んできて、最近では、市民が自分達でつくっていくものだという風になってきたと思います。良い流れになってきたなと思ってます。

■ 02. この3年間どんな活動を？

大沼：次に、この3年間は皆さんにとってどんな時間だったか教えてください。

高柳：「景観」と「風景」は、同じと捉えている方もいると思いますが、その違いを学べたことが、1番大きなことだと思っています。単に景色を見るのではなく、色々な視点でバックグラウンドを考えながら見るのが大切だと思いました。

澤田：最初は、「景観」に対する認識が浅かったので、勉強の連続でした。基準等がない世界なので、本当に難しい活動だと感じました。街や地域という単位で、景観を考えていかななくてはならないということが分かってきたような感じですね。



(左) 澤田さん
(中) 高柳さん
(右) 大沼さん

大沼：学ぶグループらしく、根本から問うようなお話ですね。

岩上：景観にもいろいろある中で探すグループでは、「自然景観」に焦点を絞り、市西部、北部や三輪に残る里山地域を探索しました。歩くうちにこの自然景観は、近隣の横浜や川崎の自然と連坦して成り立っていると気付いて、それから市域を越えて歩くようになりました。

岸：町田は、都会の良い面と田舎の良い面の両方があると思います。都心からのアクセスも良く、何気なく歩いていると思いがけない感動する景色に出会うことがあり、とても良い3年間でしたね。

大沼：探すグループからは「歩いた」ならではのお話でした。

泉川：3年間活動してきたけど、あまり緑とかには関心がありませんでした。どちらかというと南町田とかの賑わいのある場所に興味があったかな。みんなが「良い景観」とか「悪い景観」を判断する時に、僕は未だに何を根拠に判断しているのかわからない。自論としては、判断する人の幼少期の生活環境が判断基準なのかなどは思うんだけど…いまだに悩んでいる感じです。

永江：活動していくうちに、段々と「景観」というのは、人が関わっているものだとわかってきたんですよ。人が関わるもの、つまり壊したのも「景観」だし、人が修復したのも「景観」。人が関わったもの全てが「景観」、そう考えるようになってからは、汚いものも汚く見えなくなってきた。それが私の正直な心の変化です。



(左) 岩上さん
(右) 永江さん

■ 03. 景観に対する見方の変化

大沼：この3年間で「景観」が今までと違って見えてきたと皆さんおっしゃいます。「俺はこう見る」「自分はこう見る」って、つい決めつけがちだと思いますが、3年間で見方すら変わったというのは、大変興味深いと感じます。次に、近藤さんはどうですか。

近藤：「景観」と一言と言っても、時代の流れによって流行り廃りがありますが、それを抜きにしても、「良い景観」というのは、そこに人の気が配ってあるもの。例えば、花壇だって人が手入れをしていますし、古い歴史あるお寺だって人が掃除をしてきれいに保っています。人の気持ちがこもっているものは、時間が経っても残りますし、それが「良い景観」なんじゃないかなと、思うようになりました。

泉川：人がやった足跡って、人は見てると思うんですね。

大沼：佐野さんはこの3年間で何か感じたことはありましたか。

佐野：私は考えるグループ担当ですが、まち歩きのコース決めなど事前の準備をしっかりして凄く感心しました。まあ、かなり歩きましたよね。1回あたり10キロとか。それ以上とか。正直、皆さん沢山歩くなというのが率直な感想です。実際歩くと、同じ所を歩いて

も見方や感じ方は人それぞれ違う。でもその中で、皆さんが共通して注目する所がある。その時に、皆さん、何故気になるのかを考えるんです。そこがとても嬉しく感じましたね。僕も街を歩く時、その景観が良いとか悪いって判断するより、なんでそうなったのかを考える。例えば住宅街に長細い公園があって、何故その形になったかを考える。ふっと上を見ると高圧電線があって、その制限を受けたからこの空間が生まれ、それが景色になったと分かるんです。そんな経緯を考えると、さきほど、話があったように「悪い景観」も、納得するとか。納得した上で、愛着が湧いてくる。皆さん、歩いていて、そういう感覚が湧いてくるんだろうと思います。

大沼：考えるグループでは、最初は案内されたところを見るという感じだったのが、いつの間にか、それぞれ自分で足を止めて考えて見るようになり、まち歩きを重ねるごとにどんどん自由になっていきました。



(右) 泉川さん
(左) 近藤係長



■ 04. 景観と人

大沼：「景観」と「風景」の違い、隣接市域との繋がり、都会的良さと田舎的良さ、幼少期の生活環境の影響、景観と人の関わりなど、気になるワードがいくつも出てきました。さて、3年間やってきてどう感じ、どう思っているかを伺いたいと思います。

高柳：私は静岡県の清水の生まれなんですけど、清水の景観といえば、やっぱり富士山なんですね。

それで三保の松原や薩埵峠とかの超有名所と、最近活動をフォーカスしていた町田の尾根緑道を比較してしまう。尾根緑道の写真をみると素晴らしいと思うんですが、全体的に見ると、どこにでもある風景なんじゃないかと思うんです。その時にこの風景の良さをどう伝えたら良いのかなと思うんですよ。かなり飛躍してしまうんですが、最後は、そこに住む人達の情熱を訴えるべきだというのが私の結論なんです。私自身が訴えるより、そこに住む人達が魅力を説明する。それが景観づくりになってくるんじゃないかなと思うんです。

岩上：学びグループが主催した三輪緑山のまち歩きに参加した時、地元の方々に案内いただいたわけですが、その中で、けやき通りの両側に立つけやきは、切り詰められることなく自然のままのびのび育ち見事な景観となっている。通常、街路樹はばっさり切り詰められますが…。あれは三輪緑山の街の素晴らしい要素の一つだと思うんですよ。

大沼：三輪緑山のケヤキは素晴らしいという意見がありましたけど、住んでいる人の目から見てどうですか。

澤田：住んでいる人間からすれば、大切にしていますし、街の誇りとか宝ものですかね。だから、住民達で掃除をしたりして、大切にしようという意識はありますね。

大沼：岸さんは、この3年間、色々な所を歩いてきて、町田は都会と田舎の良い所を併せ持っているということでしたが、それを踏まえた上で岸さんにとっての「景観」をお話し頂けますか。

岸：私は、悪い所は見ないです。凄い看板とかあっても、それはそれで凄くアピールをしたいんだと思うだけで、怒ったりとかはないですね。良いところばかりを見る。

大沼：コイツ、駄目な部分も沢山あるけど、こんな良い所があるなという「育てる」ような見方もある。岸さんは、とにかく良い所を見るわけですね。

澤田：私は、最近町田の中心市街地を歩く機会があって、看板とかが気になりました。色褪せても、壊れても、ずっとそのままなんです。それが、ちょっと気になっています。

大沼：いわゆる悪いものだけじゃなくて、管理されていないものも注意すべき対象だと言うことですね。さて、永江さんの話で、汚いものが汚く見えなくなってきたと言われていましたが、永江さんの中では、依然として良いものと汚いものと区別がありますか？



(右) 佐野さん
(中) 大戸さん

永江：無くなりましたね。緑は良くて、禿山は汚いとかって思わなくなりました。「景観」については、人が介在しているからどうにでもなるなという感覚があるんです。ある寺に行ったら、良い大木があったのに、それを全て切ってしまったんですよ。すごい落胆したんです。でもまた、3年後に行ったら、ものの見事に修復していた。これが悪いあれが悪いって、ある程度は必要なのかもしれないけど、目の敵にするのは、何か悲しくなるといったんです。岸さんの話じゃないけど、「景観」に関しては、「モノ」の見方を変えなきゃいけないと思うんですよ。



大沼：岩上さんはどう思いますか？「良い景観」と「悪い景観」。昔は悪いと思っていた景観が今は良い。とか色々あると思うんですが。

岩上：例えば、市街地のあちこちに緑の空間・ポケットパークを作る。これはとてもいいことなんですが、管理する人がいないと雑草で覆われたりゴミが捨てられたりで見苦しくなっていく。通常、公園は市役所か市役所から委託された近隣市民が管理すると思いますが、いずれにしろ管理に関わるのは人。市民も人、役所も人。やっぱり、人と人が上手くリンクしていかないといけない。

大沼：うーん。これはとても大事なひと言だと思いますね。市民も人。役所も人。人であって組織ではない。これは、近藤さんにお話を聞かないわけにはいきませんね。

近藤：市役所だけじゃできないことは沢山あって、やっぱり市民の方の力を借りながらやっていかなくてはいけない中で、他の都市の行政担当者がもの凄くパワフルで、地元の人と本当に仲良くやっているような市民協働の事例を聞くと、凄いなと思います。市民と市役所という境界線を取り払って、人としての付き合いをしていかないと、これからの行政は立ち行かないのかなと感じました。

大沼：佐野さん、大戸さんに伺います。ボランティアの方も市の担当者もパワフルだとか、市民

と仲良くと言う言葉が出てきました。何かきれいごとのように聞こえますが、他の自治体はそういう事で上手いってますか？担当者がパワフルで市民と仲が良い＝良いことなんでしょうか？

佐野：私は「町田市住みよい街づくり条例」のアドバイザーとして地域の街づくりに派遣してもらったんですが、そこに住む方の街に対する気持ちと、それを上手く支えて後押ししてくれる市の仕組みがないと上手いかなのかなと思います。長くやっていこうとすると、両者が協力しないと成り立たないような気がしますね。

大戸：市の職員は、まちづくりの専門家なわけなので、もっと積極性を持って欲しいなと思う。市民に不必要に気を使ったりしないで、対等の関係でいいと思います。市民といっても、一通りではなく、凄い専門家もいるし、凄いい感の人もいて、やっぱり、1人1人、リスペクトし合うことが大事で、市の職員も会議の時には対等且つ積極的に発言するべきだと思うんですよ。

大沼：ただ単に仲が良いだけでなく、対等に意見が言える関係が重要だと。市役所の職員も市民を人として対等に接して、市民も市役所の職員を組織としてではなく人として接するということですかね。

■05. 景観づくり市民サポーターのこれから

大沼：さて、3年間景観づくり市民サポーターをやってきましたが、景観の「これから」について、高柳さんどうですか？

高柳：最初は、景観を単なる風景と捉えてきたんですが、もう一歩深く踏み込んでいこうというのが今の心情です。これまでは都市計画的視点から見えていましたが、今後はもっと地元に入って、町内会や自治会で一緒に街を歩ける人を探していこうかなと。景観の良さというより、景観について一緒に学べたら良いなと

というのが、正直なところですね。

大沼：ご自身が大きく変わられたみたいで非常に素晴らしいですね。さて、澤田さん、サポーター活動を経て、今後やこれからについてお話し願います。

澤田：自治会や地元住民と関わってきて、花や木という身の周りの話題は出てくるんですけど、「景観」という言葉は全然使わないんですよ。だから、「良い環境、きれいな自然、緑、花、こういう身近な話でやっていきましょう」という話題しか出てこないんです。ただ、身近な話だけじゃなくトータルで捉えていくと、景観というのが重要なことだというのが分かってくる。

大戸：去年、三輪緑山で街歩きのイベントをやったのは、三輪緑山の住民の方にとっても、良かったんですよ。自分達の身近なものを「景観」という観点で捉えなおす機会になったんですから。

澤田：三輪緑山の住民にとっては、当たり前前の風景なので、特に意識していないと思います。この前、神奈川県街歩き団体が、三輪緑山に来て思ったんですけど、外部の人達は、街をそれなりに評価してくれて、だから今後は意識的に大事にしていかなければいけないのかなと。



大沼：身近な目線だけでなくもう少し広い視野から考えてみることに繋がりそうですね。さあ岩上さん、岸さん、永江さん、これからに向

けてどうですか？

岩上：今、私の住んでいる鶴川の自然が、どんどん壊されて少なくなってきた。また、残された自然も整備されず荒れたままになっています。鶴川の自然環境を如何に残すかの活動に取り組んでいきたいと思っています。

岸：自然を残すというのは、凄く大変なことですけど、例えば、奈良ばい谷戸なんかですと、農作をしなくなった土地を市が取得して、市民が楽しみながら田んぼ耕作や四季の野菜を作っている。素晴らしいことだと思います。

永江：普通の人には身近なことでは考えられないと思うんですよ。ですから、景観は身の周りから。それが自ずと広がっていくのかなと思うんですよ。今後のサポーターの活動は、その感覚を持つようにすれば良いのかなと思います。

大沼：永江さんの身の周りの話、あと澤田さんのもっと広い視野から観た方が良いという話。景観には両方の視点が必要なのかと考えさせられます。今後のサポーターには、どんな可能性があるのでしょうか？

近藤：町田市の良い景観、若しくは、それに関わる人のことを、多くの市民に知ってもらえるような活動をやっていきたいと思っています。町田市景観計画の中で、「生活風景宣言」というのがありまして、市民の方に身近な景観づくり活動を2年間続けていただくと表彰するという制度なんです。我々も、多くの市民の方々に宣言してもらえることを目標に動いていますので、身近なことから大きな景観に繋がるような仕組み作りをしていきたいと思っています。

大沼：最後のまとめになりますが、佐野さん、大戸さん、今後に向けて何かキーワードになるようなものは、これまでの話の中でありましたか？

佐野：そうですね。皆さん「景観」に3年間取り組んできて、「景観」についての感じ方が変わってきていると思います。「景観」を作るのも人、壊すのも人っていう話は、そこに見えている景色だけではなくて、それを担っている人にも着目して、サポーターが活動できるレベルにきたのかなと思います。

大戸：結局、人が関わってこそその「景観」というところに、皆さんは、共感されてると思うんです。第3期があるかは分かりませんが、サポーターを支援する仕組みをサポーター自身で考える時期に来ていると思うんですよ。市が市民の取り組みを支援する制度だけど、それについてサポーターが考えても良いんじゃないかなと。

大沼：景観づくり市民サポーターが何をサポートするのかと言った時に、景観そのものをサポートする、「市民」をサポートする、そして行政もサポートするということですね。

大戸：行政をサポートすることが、市民の景観づくりをサポートすることに繋がる。その時は、市民と市は増々対等に議論する必要がある。

佐野：試しに今度の3年間で、それをやってみても良いんじゃないかな。

永江：今は、そういう世の中になりつつあるものね。お互いフィフティーフィフティーでやると市役所も助かるし、市民も市役所が話を聞いてくれたら、万々歳だよ。お互い助け合ってやってくというのが、新しい時代の在り方なのかもしれないね。

(終わり)

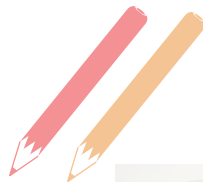
■和やかな空気のなか、
景観について活発に語り合えました。

皆さん、お疲れ様でした!



みんなのよせがき

～伝えたいこと・感じたこと～



景観は地球と人がつくる共同作業。明日のための生活環境づくり

新さん

町田の景観100選を選んでもらいたい。その写真を撮るのが夢です

荒木さん

谷戸地形が作りだす景観。少し理解、でももっと知りたい

泉川さん

この自然環境を東京未来遺産として保全を

岩上さん

変わり行く原風景、次世代に残していきたい。

大倉さん

町田を歩けば、目から鱗の多様な景観

大下さん

地形・自然・人の営み。人がつくる。自然と人がつくる。共同作業。明日のための生活環境づくり

大沼さん

この美しさを次世代に！向かおう保全へ

荻野さん

景観は生活に潤いを、自然との調和は安らぎを与えます。残りを里山を子孫に残したいです。

勝田さん

書を捨てよ、街に出よう。そして其処に身を委ねよう

清瀬さん

景観は時と移ろい、人もゆくと移ろい。今も大切に伝えたい

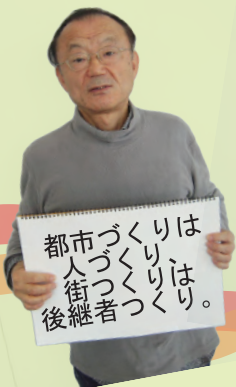
小寺さん

景観に刻まれた歴史を知りたい

小山さん

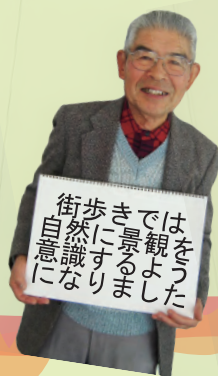
良い景観は、機能美を備えている

澤田さん



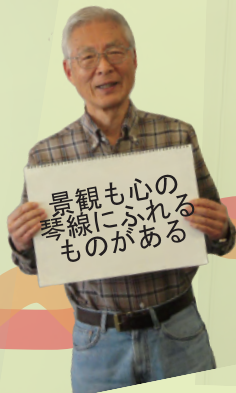
高柳さん

都市づくりは
人づくりは
街づくりは
後継者づくり。



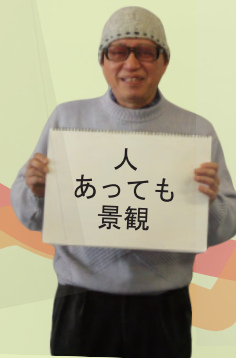
滝口さん

街歩きでは
自然に景観を
意識するま
じりになりました



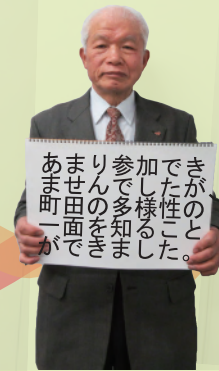
徳力さん

景観も心の
琴線にふれる
ものがある



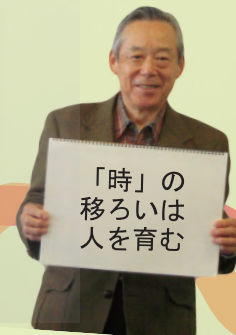
永江さん

人
あっても
景観



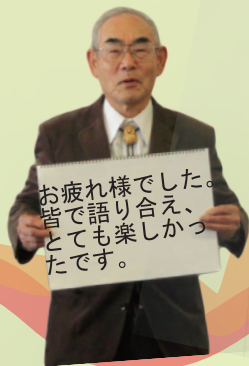
中島さん

参加できた
多様なこと
り多知りました
ま田面をき
あま町一が



西原さん

「時」の
移ろいは
人を育む



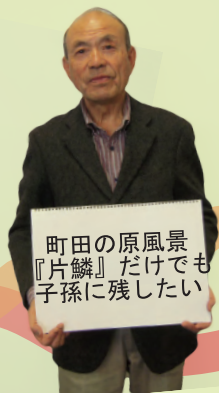
野口さん

お疲れ様でした。
皆で語り合え、
とても楽しかった
です。



彦根さん

100年先を見た
景観、
緑の確保



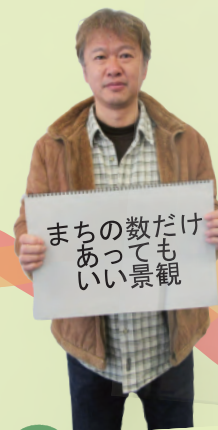
矢口さん

町田の原風景
『片鱗』だけでも
子孫に残したい



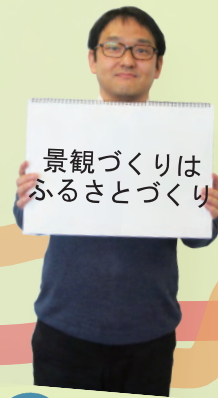
大戸さん
(景観づくり
コーディネーター)

様々な個性
市民の力



鵜沢さん
(景観づくり
コーディネーター)

まちの数だけ
あっても
いい景観



佐野さん
(景観づくり
コーディネーター)

景観づくりは
ふるさとづくり



3年間
お疲れ様でした!!



- 編集 第2期 町田市景観づくり市民サポーター
- 発行年月 2017年3月
- 刊行物番号 16-90
- 発行 町田市
- 問合せ先 町田市都市づくり部地区街づくり課
街づくり推進係
 - ・住所 〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
 - ・TEL 042-724-4267(直通)
 - ・URL <http://www.city.machida.tokyo.jp/kurashi/sumai/toshikei/keikan/index.html>

